

タンザニア

企業訪問調査レポート【3】

UMOJA WA ENDESHA PIKIPIKI ARUSHA (UWAPA)

～アルーシャのバイクタクシードライバー達による教育活動およびマイクロファイナンス～

■ タンザニア連合共和国 — 基礎データ —

- 面積: 94万 7,300平方 キロメートル[日本の約2.5倍] (在日大使館)
- 人口[2013年8月]: 約4,925万3,126人 (世銀)
- 首都: ドドマ[法律上の首都] / 人口208万3,588人 (2012年 国家統計局)
実質的な首都機能はダルエスサラーム / 人口436万4,541人 (2012年 国家統計局)
- 名目GDP[2013年]: 332億8,500万ドル (2014年10月版 IMF Database)
- 1人当たり名目GDP[2013年]: 719.26ドル (2014年10月版 IMF Database)
- 実質GDP成長率: 7.2*% (2014年10月版 IMF Database) *: 暫定値
- 為替レート[中央銀行 2014年11月版]: 1ドル ≒ 1,598.60 タンザニア シリング (2013年 平均値)

出所: JETROホームページ 国・地域別情報 (J-FILE)「タンザニア概況 (2015年2月更新)」



■ 調査実施 : 2014年 8～9月

■ 分野 : マイクロファイナンス

■ 特徴 : アルーシャにおける「バイクタクシー乗り(ドライバー)たちの、バイクタクシー乗りたちによる、バイクタクシー乗りのための」教育活動およびマイクロファイナンス。ドライバーに対しての「安全教育」や「貯金の勧め」等の教育的側面が特徴的。
UWAPAが運営するマイクロファイナンス=小口融資のシステム(サーコス)は非常にシンプルだが、融資前から融資後、さらには返済後まで、運営側だけでなくサーコスのメンバー全員が手厚く受給者の面倒をみる仕組みとなっている。

■ 設立の背景 (概要) : バイクタクシーは街中のどこにでも駐車していいわけではなく、所定の場所に固まって駐車することになっている。このグループを通常、「駐車グループ」と呼んでいる。UWAPAは、4年前に現在の代表取締役、当時は駐車グループのリーダーだったゴッドライン氏が、警察と他の駐車グループとの間でトラブルが生じたことから、駐車グループ同士の結束の必要性を感じ、発足させた。

団体概要

- 団体名 : UMOJA WA ENDESHA PIKIPIKI ARUSHA (UWAPA)
- 住所 : P.O Box 15418 Arusha Tanzania
- 主要拠点 : アルーシャ
- 設立年 : 2011年
- 団体運営者数 : 9人
- 団体加入者数 : 2,890人 (2014年4月時点)



組合のロゴマーク

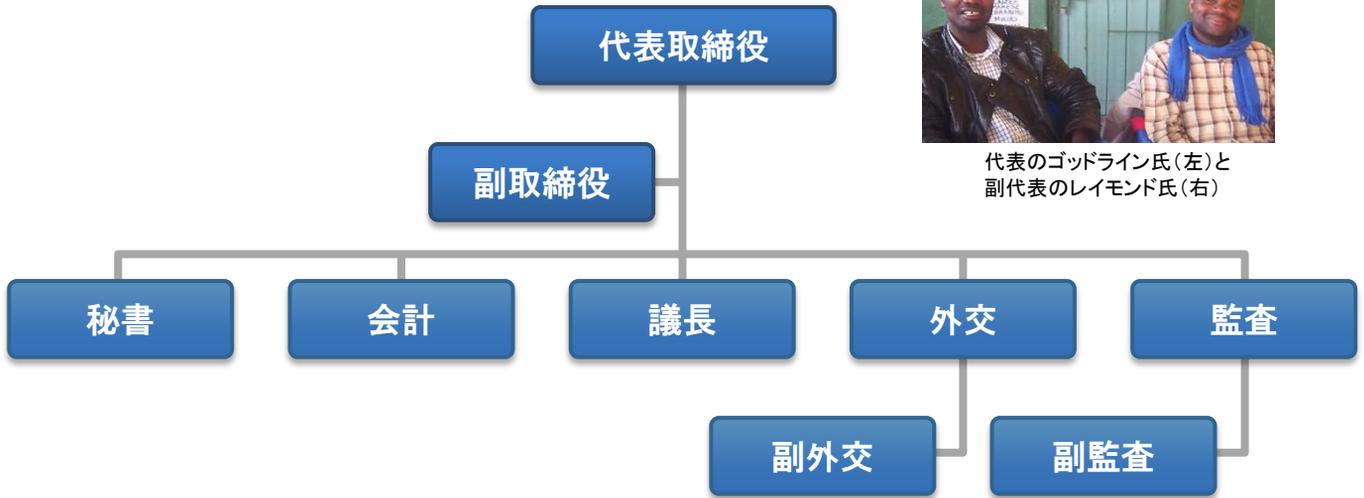


オフィス内部



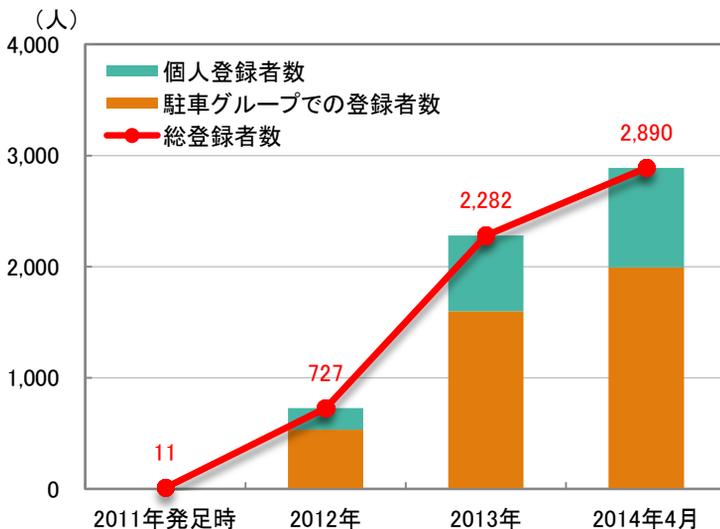
オフィス外観

組織図



代表のゴッドライン氏(左)と副代表のレイモンド氏(右)

メンバー登録者数の推移と内訳



メンバー登録の流れ



● 発足時11人だったメンバーは、3年で2,890人にまで増加した。
 メンバー登録の際、面接を実施し、犯罪歴等がないかをチェックする。なお、運転免許が無くても登録はできるが、UWAPAは警察と連携の上、登録メンバーに対し、正規ルートでの免許取得を呼びかけている。

バイクタクシーについて

バイクタクシーとは、ドライバーが客を後部に乗せ2人乗りで目的地まで連れていくものを指す。使用しているバイクの多くは「Tiger」、「TOYO」、「Skygo」等の中国製のバイクで、アルーシャでは新品の場合、約1,800,000シリングより購入することができる。しかし、ドライバーの多くは経済的な理由によりバイクを借り、毎日持主に6,000～7,000シリングをレンタル料として支払っている。持主との契約内容にもよるが、基本的にガソリン、修理代は自己負担。1日の終わりに手元に残る利益は0～5,000シリング程度。

アルーシャにおける1kmあたりの乗車料金は約1,000～1,500シリング。なお、ドライバーはほぼ全員が男性である。



「ボダボダ」と呼ばれているアルーシャのバイクタクシー

UWAPA設立の背景

通称「ボダボダ」と呼ばれているバイクタクシーが街角のいたるところに駐車しており、その数はアルーシャの街なかだけでも4,000台近いといわれている。それらバイクタクシーのドライバーの多くは、経済的な理由によりバイクを現金一括払いで購入できる現金を持ちあわせることが難しい*1。そのため、他人が所有するバイクを商売道具として借り、レンタル料として毎日6,000～7,000シリングをバイクの所有者に支払うドライバーがほとんどである。結果、手元に残る利益は少なく、また、レンタルで使用中のバイクの盗難や警察とのトラブルが後を絶たなかった。このようなことから、ドライバーたちは、駐車場所ごとにメンバー同士が緊急時に助け合うグループ組織「駐車グループ」を形成するにいたった。

UMOJA WA ENDESHA PIKIPIKI ARUSHA (UWAPA)は、これらの「駐車グループ」をまとめ、ドライバーへの教育活動のほか、緊急時の相互援助システムとして、ドライバー対象の小口融資を実施している。

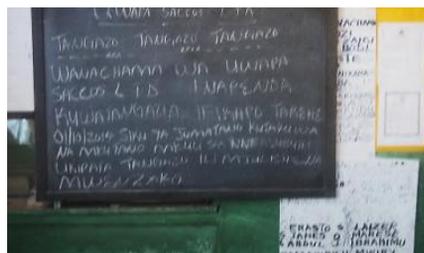
*1:アルーシャのバイクタクシー組合代表談

UWAPAの活動内容

① メンバー登録者向け定期ミーティング

週に1、2回登録者全体でミーティングを行い、当該週の事故数、無免許運転や飲酒運転の危険性の説明、メンバー間のもめ事の解決等を行っている。

秘書の給料はミーティングにおける登録者からの寄付金で賄っている。



ミーティングでは黒板が使われている

② 「駐車グループ」対象の教育活動

登録、未登録グループに関係なく、外交が定期的に駐車グループを訪れ、ヘルメット着用や運転免許取得の呼び掛けを行ったり、飲酒運転の危険性を説いて回ったりしている。



駐車中のバイク

③ UWAPA登録の「駐車グループ」対象のヘルメット担保

2013年9月にドライバーのヘルメット着用が義務付けられた際、Tanzania Revenue Authorityおよび警察からの寄付金を元に、駐車グループがヘルメット(15,000シリング)の半額以上をプールすることを条件に、駐車グループに対しヘルメットの融資を行った。1年後の時点で、当時融資を受けた43の駐車グループすべてが返済を終えているとのこと。



実際に融資されたヘルメット

UWAPAの活動内容 一つづき

④ UWAPA内でのマイクロファイナンス「サーコス」の運営

「サーコス」とは、マイクロファイナンスを行うグループの通称で、教会内や友人同士でグループを組むなど、大小様々なサーコスが存在している。

2013年10月よりUWAPA内において、小口融資と節約や貯金に関する教育を目的としたサーコスを開始。メンバーと共同で管理、運営している。

UWAPA:メンバー登録 2,890人

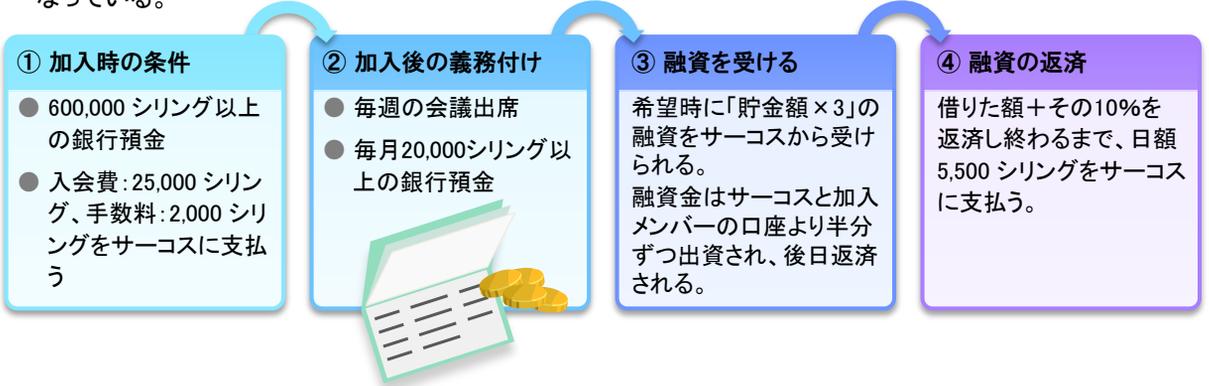
ドライバー同士の団結と情報交換の場の提供。ドライバーに対する安全教育を目的として、活動している。

サーコス:加入者 102人

小口融資と、サーコス加入者に対して節約方法や貯金することのメリットを教育する。銀行に個人口座を作り、加入メンバーと共同で管理と監視をしている。

「サーコス」の運営システム

「サーコス」に加入するには、銀行口座を作り、600,000シリング以上の預金をした上で、入会費と手数料を支払う。融資を受けた際の日々の返済額は、バイクのレンタル料(6,000~7,000シリング/日)よりも安く設定されており、受けた融資は自身の資産となるため、ドライバーを職とする経済層でも利用しやすくなっている。

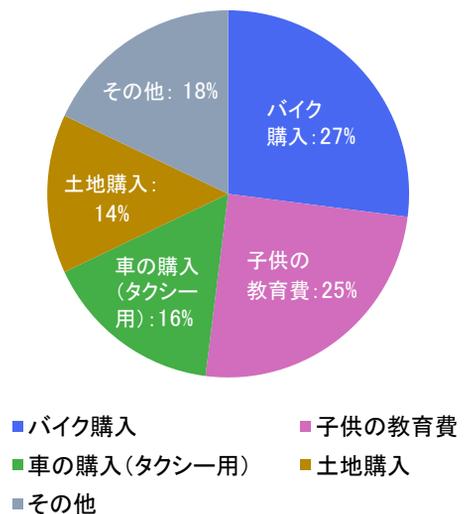


「サーコス」加入者数と小口融資受給者数の推移



全受給者34人中21人が返済を終えている。

「サーコス」加入(融資金の使用)の目的



UWAPAの活動内容 一つづき

④ UWAPA内でのマイクロファイナンス「サーコス」の運営 一つづき

● 融資受給後の返済を楽にするための施策

- (1) 融資受給前から月20,000シリングの貯金の義務付け
- (2) 融資を希望する際、融資金の使用目的について運営側が本人とともに協議する
- (3) 受給後に返済が滞った場合、受給者の抱える問題をミーティングで話し合い、解決する

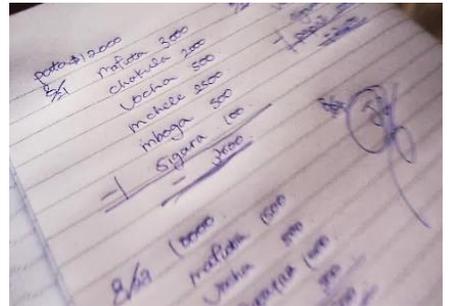
● 「サーコス」の教育的側面

毎週の定期ミーティングでは、サーコス加入者に対し、貯金の勧めや家計簿のつけ方をはじめ、無駄のないお金の使い方について教育している。

融資金についても、融資金返済後も定期的に収入を得ることのできるもの(例えば、2台のバイクを購入し1台を自家用に、もう1台を貸し出し用にしてレンタル料金を得る、あるいは土地を購入して家を建て、貸し部屋などで家賃収入を得る等)に充てるよう勧めている。

こうした教育の場の側面もあるミーティングは、メンバー全員参加が義務付けられ、遅刻者、無断欠席者には罰金の制度がある。サーコス開始当時、実際に融資を受けても本人がその使い道をよく考えていないメンバーがあまりにも多いことから、この教育制度が開始された。

代表曰く、外部の講師はドライバーに対して説得力があるので、日本人から効果的な家計簿のつけ方や、将来的なお金の使用計画のたて方を教えてもらいたいとのことである。



家計簿

「駐車グループ」の活動概要

「駐車グループ」とは、街の所定の場所に固まって駐車するバイクタクシーからなるグループで、5～20人程度のメンバーで構成されている。

UWAPAの各メンバーが所属する駐車グループは、身元不明のバイクタクシー事故や、バイクタクシードライバーによる誘拐、盗難を防ぐために発足した。各駐車グループでは、安全にタクシー営業するため下記のような施策を講じている。

- ・ドライバーの正規運転免許証の取得
- ・一度の旅客乗車人数は1人までとする
- ・2013年9月よりヘルメット着用の義務付け

● 「駐車グループ」における相互補助(小口融資)

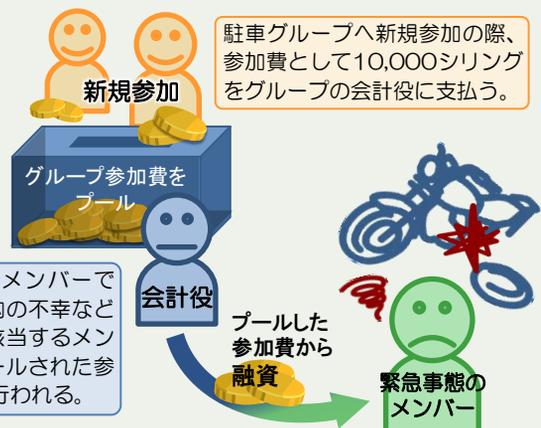
UWAPAの「サーコス」とは別に、駐車グループ内においても相互補助としての小口融資の仕組みがある。元金は駐車グループへの参加費で、事故や病気、慶弔等の非常時案件に対し、駐車グループメンバー間で小口融資が行われる。融資対象となるかどうか、および融資金額については、会計役を含め駐車グループのメンバー全員で話し合い、決定している。

緊急時の際、まとまった現金が手元にあるドライバーは少なく、小規模ながらも有効なシステムと言える。返済期限を定めておらず、返済の遅延はミーティングなどで警告している。

駐車グループのメンバーで事故や病気、身内の不幸などがあつた場合、該当するメンバーに対し、プールされた参加費から融資が行われる。



乗客は1人まで、後部座席に乗せる。



現在タンザニアでは、銀行から融資を受ける際、口座残高や職業だけでなく、土地や車といった財産に関しても厳しい審査がある。バイクタクシーのドライバーを職としているような経済層の人たちが、銀行からの融資を受けることは実際には難しい。

UWAPAおよびUWAPA内の「サーコス」は、運営側自身がドライバーというだけあり、銀行融資が困難な事情を含め、ドライバーのニーズや彼らの抱える問題を非常によく理解しており、それが運営方針や内容によく反映されているように感じた。また、小口融資だけでなく、安全教育、警察とのトラブル解決といった、「ドライバーによる、ドライバーのためのグループ」という活動内容は、たどれば駐車グループ発足当時の志がいまだに色濃く残っていることの表れで、好感を持った。

現段階では、少人数で発足した当時そのままに、融資の際も、その他トラブルの際も、一人一人丁寧に対応している。この先、人数が増加することが予想される中で、いかに少ない運営メンバーで大人数に対処し、団体をまとめていけるかが今後の課題になってくるであろう。しかし、代表も語っているように、登録メンバーが増えても団体の教育的側面はぜひ残して欲しいところである。



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。